

- ・追加・変更箇所は**赤字**で表記。改訂日付は最新のみを記載。
- ・このメモから、ご自身の必要箇所を楽譜に転記するなど有効活用して下さい。

初版 2024/07/16

改訂 2025/03/25

【Swansea Town】変更と注意事項

<曲を通じて>

- ・「Swansea」は諸説あるが「スワンシー」、ただ縦にしゃべると「スウォンジー」のようになる。
- ・歌詞を明瞭に発音しようと意識しすぎると、横の発音になる。明瞭さより縦を優先して発声。
- ・演奏方針：曲は長いが、実は、掛け合いとか動と静（テンポの変化）など、各パートが少しずつ形を変えているいろんなことをやっていて意外に面白いアレンジになっている。これを際立たせるためみんなでモチベーションを維持して歌いきる。

曲中のテンポの上げ下げは

**とにかく指揮を見て指揮に合わせて。
速さの差を狭くしているので注意。**

★テンポの変更箇所は譜面通りとする(20250325)。

52 小節は 4 拍目からゆっくり。ただし遅くなりすぎない。

64 小節は 4 拍目から a tempo。ただし走らない。

- ・曲想：マーチを意識して勇壮に男らしく。縦に。硬めにエッジを効かせて歌う。流すようには歌わない。

「Robert Shaw Chorale の演奏」を聴いて全体の雰囲気をつかんでほしい。

※ただし、71 小節～ラスト は原曲と異なるアレンジで演奏するので注意（次頁参照）。

- ・8 分音符×2（跳ねない：14 小節 4 拍等）と、付点 8 分音符+16 分音符（跳ねる：16 小節 4 拍等）は楽譜通りにきちんと区別してリズムを刻む。（★これは何度も指摘されているので注意）
自分のやりやすい方（ノリ、好み）でやらないように今から習慣づけて。

- ・自パートがメロディを担当する小節は、主役として曲を引っ張っていく意識でしっかりと歌う。

<個別事項>

- ・14 小節 3 拍目 B1B2 「A」は T1T2 の「F」と音程が逆転、「see」をしっかりと出すように。

T1T2 「see」が尻切れトンプオにならないよう、音符の長さを維持。

全パート 4 拍目の old は、8 分音符×2（跳ねない）。

- ・22 小節 T2B1B2 4 拍目の old は、付点 8 分音符+16 分音符（跳ねる）。

- ・23 小節 T2 3・4 拍目はメロディではなくなるので要注意。

- ・24 小節～ 「m f」となっているが、全開で。歌うパートが減っているので勝手に「m f」になる。

・26 小節 1 拍目 全パート 25 小節 4 拍目と同じ音（T1T2 は下げない、B1B2 は上げない）。

・28 小節 B2 4 拍の F → B の音程を正確に。

・29-32 小節 B1 がメロディなのでしっかりと。

・30 小節 T2 1-2 拍は、B→D で 1 音飛ぶ。2～4 拍は同じ音「D」。新しい進行なので正確に。

B1 3 拍目はここまでの「A」ではなく「#F」。上がりすぎないように注意。

・30-31 小節 B1 がメロディなので、しっかりと響かせる。

・31 小節 B2 4 拍目～ and・・は強く入るが、32 小節は decrec.（T2 パートソロを生かす）。

なお、「and」は「G G」。「F G」ではないので注意。

・32 小節 **T2 輪唱の出だしを担っている。元気よくしっかり歌いだす。
メロディは 1 パートだけになるので、しっかり。**

・33 小節～ B2 34 小節までの 7 拍をきちんと伸ばす。

また、40 小節にかけては、入り方が難しいので、どこを歌っているか全体をよく聞いて確認すること。

・34～38 小節 B1 B2 帳尻合わせのための寸足らずの違和感は慣れで吸収。

・37 小節 B1 1 拍目は「G」に下がること。 B2 4 拍目は「A」、「B」から下がるので注意。

・39 小節 B1 がメロディなのでしっかりと。

・40-48 小節 「p」ただし、脱力はだめ。小さくてもしっかり。

・48-52 小節 「f」その前の「p」とのメリハリをしっかりつける。全パートメロディなので迫力出して。

・47 小節 終わりのフレーズのパターンが早め（イレギュラー）に出てくる。混乱注意のポイント。

- ・52 小節～ ゆっくりになるので粗が目立つ（音程や音符のズレなど）。メロディに寄り添う意識で。
国歌斉唱（アンセム）のような雰囲気**でピンツと朗々と**。会場を「ブアー！」と響かせる感じで。
- T1 ファルセットできれいに T2 に音を乗せていくイメージ。
- T2 難しい進行だが正確に。
- B1 軸となるメロディラインなのでしっかりと。
- B2 特に 56 小節～は縦に分厚く。発音よりも重厚な響きを重視。（横口厳禁）。

・最後のセクションは勇壮に荘厳な感じでエンディングを迎える。そのテンポと歌い方は次の通り。

52 小節～ *meno mosso* 「この小節以降は、そこまでより遅く」

legato e espressivo 「～56 小節は音を滑らかに、表情豊かに」

57～59 小節 *slower rich* 「さらにゆっくり。豊かに」

60 小節～64 小節 **nostalgically** 「望郷の念」、さらにゆっくりにする。

64 小節～ *a tempo* 「ひとつ前のテンポ：52 小節～のテンポ」に戻す（少しだけ速く）

※譜面通り 4 拍目から *atempo* にもどす（20250308 合宿で方針変更）。

***atempo* 後のアクセルは柔らかく踏む。急加速しない。**

65 小節～ *marcato* 「一つ一つの音をはっきりと」

★テンポは指揮をよく見る（上げすぎないこと、67 小節まではゆっくりにしないこと）

68 小節～ *Slower* 「この小節以降ゆっくりと。」

cresc. e rit. 「出だしは特にゆっくり、やや強く」

最大限に盛り上がって大団円で終わる感じで。ハーモニックスを聴かせる醍醐味。

フェルマータでは一回切る（止まる）。

再開は指揮をよく見て合わせて「f」で全開で。

70 小節 3,4 拍 *ten.*と破線「音符の長さを十分に保って演奏」★ポルタメントではない
ブレスはしてよいが、ブツツと音が切れないように。

71 小節～ ★今回はどちらも採用しない *molt rit. e dim* 「だんだん遅く、だんだん弱く」

代わりに、前半最後にふさわしく *grandioso*（壮大に）で「バーン！」で締める。

そのためには、B2 は四分音符でティンパニーのように「ダンダンダン」と刻む。

- ・61 小節 B2 4 拍目は下がらない。「A」に上がる。
- ・62 小節 B1B2 「is old」は、T1 T2 とのズレがかっこいいので、きちんと跳ねて強調して。

・69 小節 T1 付点 2 分音符の all は、3 拍目の裏で、「I」を入れると、次の in に行きやすい。

(オオオI イン のイメージ)

・70 小節 B2 トリッキーな進行なので音程を正確に。

3 拍目「D」はこの調のルート音なので、そこで一回解決すると思えば取りやすくなる。

B1 3→4 拍はD→Dのオクターブ、しっかり下げる。

全パート 4 拍目は難しい和音だが決まると美しいので、正確に。

・71 小節 B2 4 分音符×4。跳ねずに重厚感で落ち着いた感じでドッドッドと響かせる。